

みんなに伝えたいマイプリントのトリビア

マイプリントは今年で創業50周年。当コーナーは今年いっぱい特別バージョンでお送りいたします。今回は欧米では古くからある素敵な慣習、“Save The Date”をご紹介。トリビアを知るって、とってもトレビアーン!!



トリビア好きの案内豆(?)、トレ・ピーンズ男爵。小粒だけど面白い豆知識を広めています。

● 結婚が決まったふたりの最初のオシゴト “Save The Date”

マイプリントが2011年末から販売を開始し、全国にその名を広めた“Save The Date”とは、結婚式の日取りが決まつたら、正式な招待状を発送する前に招待したい方にいち早くお知らせするカードのことです。日本ではこれまであまり馴染みはありませんでしたが、“Save The



Date”を送ることは式を挙げるおふたりにとって大切な方々への結婚の報告にもなり、欧米のウェディングでは古くからあるマナーを重んじた素敵な慣習なのです。結婚式にお呼ばれしたら、ご祝儀や当日着ていく服の準備、日程の調整など、ゲストも結婚式の準備がたくさんあります。招待状を送る前に“Save The Date”を送れば、早い段階で式の日取りをお伝えできるのでゲストの方も都合がつけやすく、また、「大切なあなた

だからぜひ出席してほしい」という気持ちが伝わります。



マイプリントでは、クラシカルなものからスタイリッシュなものまで、豊富なデザインやカラーハリエーションをご用意。多様な嗜好に対応するラインナップが、多くの挙式者様からご満足の声をいただいておりマース。



受け取った瞬間にワクワクしてしまうようなカードがふたりのウェディングの始まりを告げてくれる、こんな素敵なカードをぜひ、大切な方に送りたいですね!! それでは、次回のトリビアもお楽しみに!! オ・ルヴォワール!!

50th Anniversary

編集
後記

もともと私の憧れでもあり大ファンの吉田さん、結婚式を前にこちらも幸せになれるお話をたくさんしていただきました。ブランドプロデューサーとして自分のスタイルを持しながら働く吉田さんのように私ももっと自分らしく頑張っていきたいと思います。(玉岡)

今回の取材を通して、自分がやりたいと思うことは心中で思っているだけではなく、言葉にすることが大事であると感じました。自分の決意の為にも、相手に想いを伝える為にも、これからは想いを言葉にしていきたいです。(柳岡)

MY Pleasure 喜び・感謝伝える“マイプレジャー” 2014 Summer Vol.16

For Our Pleasure
ブランドディレクター・バイヤー
吉田怜香さん

ウェディングをもっと素敵に!
心がふれあうオシゴト拌見
書道家・カリグラファー
島野真希さん

Personal Facts
スタイリスト
古田千晶さん

Christmas Collection





服や小物で 新しい自分に出会えることもある。 大好きな服を通じて、 愛するすべてにプレジャーを届けたい

読者モデルとして人気を集め、アパレル会社でのブランド立ち上げを経て、自身のブランドを販売するウェブショップをオープンした吉田怜香さん。昨年のクリスマスイブに入籍し、9月の結婚式に向けての準備真っ最中。幸せオーラに包まれたお話を伺いました。

「いい奥さん」像を変えたひと言で結婚を決意。
憧れるのは自分ちらしいウエディング

先日、ウエディングドレスを見にいってきましたが、素敵なドレスがたくさんあって、やっぱり迷ってしまいましたね。1点は決まりましたが、あとはまだ(笑)。式については、あまり形式ばらずに普段の自分ちらしい式にしたいと思っています。カジュアルな感じで、大好きなデニムをドレスコードにして。内装も、ゴージャスというよりはグリーンをたくさん置いてナチュラルなイメージがいいなと思っています。

ウエディングって人生の中で特別な瞬間だと思

います。自分ちらしい素敵な結婚式にしたいけど、「どこまでわがまま言っていいのかな」と考えてしまうとなかなか聞きにくくなってしまうこともあります。なんでも相談しやすいプランナーさんや、細かなことにも自由度が高い式場がもっともっと増えたらいいな、と思いますね。

私、自分の結婚は遅いと思っていました。周りからもそう言われていましたし、仕事が楽しくてつい優先してしまうので、35歳くらいまでにできればいいかなと思っていたが、旦那さんと出会って、どんどんとすべてが自然に流れていこうなりました。入籍



前から一緒に住み出したので、結婚自体で生活が大きく変わった、ということはないのですが、安心感はありますね。もともと外に出て働くほうが好きで家事が得意ではない私には「いい奥さんになれない」っていうコンプレックスがありました。でも旦那さんは「いい奥さんっていうのは、ふたりの関係によって違うと思う。自分にとっては家事ができる人=いい奥さんというわけじゃない」と言ってくれて(笑)。この言葉はとてもうれしかったですね。

ファッショング好きだからこそ妥協はしたくない。お客様と触れ合える店舗ももうすぐ実現!?

私は接客と服が好きで、ずっと服に関わる仕事をしたいと思っていました。スカウトされて読者モデルになり、その後、普通のモデルの仕事も少しだけしましたが、私は読者モデルの方が向いていると思いました。読者モデルは自分ですべてプロデュース



してメディアに出るので、スタイリストさんが用意した服を見せるモデルの仕事とは違うものです。私は自分が本当に好きな服を着て出たい。体型的にも、いわゆるモデル体型というわけではないので、それをうまく、より自分を魅力的に見せてくれる服を選ぶのが腕の見せどころ。自分のブランドをディレクションしているのも、自分が本当に納得のいくものをリリースして、それを喜んでくれる人のところに届けられるのがうれしいからです。

今目指しているのが実店舗をオープンすることです。ショップにいた時は、お客様と直に接してアド

バイスしたり「買った服を着てデートに行ったらうまくいった」なんて話を聞けたりするのが大きなやりがいでした。今はウェブショップだけなのですが、「お店をつくってほしい」ですとか、届いた服に関する感想や意見をくれるお客様がたくさんいます。そんな方たちと直接会って、話して、似合う服や小物と一緒に選べるライフスタイルショップを開くのが夢です。アトリエやオフィスも一緒にあって、私はいつもそこにいられる。そんなお店を目指して、少しずつ場所選びも進めています。

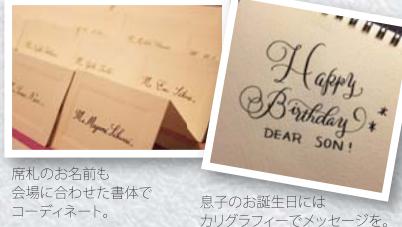
そういった今の自分の仕事と、それを一緒に喜んだり悩んだり励ましてくれる旦那さんと、愛する犬たちとの生活。そのすべてがマイプレジャーですね。そこで自分と大切な人たちが幸せを感じて過ごせるよう、服や小物を通して幸せな時間や気持ちを広げられるよう、これからも自然体で進んでいきたいです。



吉田 怜香
ブランドディレクター・バイヤー
神戸のセレクトショップにて販売員として務め、女性ファッション誌のViViやJJにて読者モデルとして活動。2011年より企画、デザイン、SHOPの内装までをトータルディレクションし、Ungridを立上げる。2013年3月にUngrid 2013 Spring Summer Collectionとしてブランドムック発売。女性ファッション雑誌、S Cawaii!やsweet、ViVi、vikkaなど多数の雑誌にて掲載。2013年12月、自身の手掛ける新ブランドTODAYFULや買付けてきた古着、生活雑貨などを販売する「LIFE's#203」のオンラインショップをオープン。

* 書道家・カリグラファーの仕事とは?

私の仕事は筆や万年筆などのペンを使って文字を書く仕事を全般になります。これまで手掛けた書道の仕事は、テレビ番組の題字や飲食店の店名ロゴ、お品書き、年賀状やお子さんの命名書、観賞用の作品などです。またカリグラファーでは、ロゴやウェディングのウェルカムボード、招待状の宛名書きや席札などです。新卒で就職した会社ではウェディ



席札のお名前も
会場に合わせた書体で
コーディネート。

息子のお誕生日には
カリグラファーでメッセージを。

ングプランナーとして仕事をしていました。そのときもプランナーの仕事と並行して、依頼があれば書き仕事を手掛けていましたが、出産を機に会社を辞め、書くことを本格的に仕事にし始めたまだ間がないので、これからどんどん幅を広げていきたいと思っています。

* 仕事をする上で大切なこと

私が常に心掛けているのは、求められているものの少し先まで考えを巡らせておくということです。求められているものを形にするのは当たり前。それよりも1.5歩くらい先にいくこと。あまり進み過ぎてしまうと理解してもらえないし、依頼者のイメージとは違ってしまいます。期待よりも少し先、プラスαのものを生み出したい。なかなか難しいんですけどね(笑)。

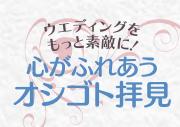


創作書道の
ワークショップで
生徒さんたちと
自分だけの
うちわを作りました!

また、自分の手で生み出す仕事なので、練習しないとすぐに腕が落ちるんです。一生勉強、毎日練習の気持ちで練習を怠らないことも大切にしています。

* これから目指すもの

「ウェディングで素敵な招待状を作っても、封筒の宛名が印刷や普通の書き文字に



世界でひとつ手書き文字を届けたい もっと自由に素敵に!!

幼い頃から書道を始め、一度は別分野に進むものの、字を書くことが自然と本業になってしまった島野真希さん。思わず目を奪われる作品や見た人が笑顔になるようなオリジナリティあふれる作品を、一つひとつその手で生み出し続ける島野さんにお話を伺いました。



書道家・カリグラファー
島野 真希

幼少より書道をはじめた。高校卒業まで続けるが大学へは別分野で進学し一時中断。卒業後ウェディングプランナーとして活躍。結婚を機に書道を再開、現在はフリーの書道家・カリグラファーとして、観賞用の作品だけでなく企業や店舗のロゴ制作、招待状の宛名筆耕などを手掛けている。書のワークショップなども定期で開催している。<http://ameblo.jp/makipod75/>

なってしまうのがもったいない」。私は、知り合いのアートディレクターさんのそんな一言をきっかけにカリグラファーを学び始めました。欧米の練習キットや洋書などから試行錯誤しながら独学で学んで今に至ります。年々オリジナリティに富んできている招待状に合わせ、宛名も自由に素敵なものが選べたらいい。今の日本のカリグラファーは、カチッとした書体をきれいに手書きするものが主流ですが、欧米のように、フリーハンドで自由自在に書く創造的なカリグラフィーやモダンな筆文字を、選択肢として広めていきたいと思っています。それがやがてウェディングの新しいスタンダードとなったらうれしいですね。そのためには、モダンカリグラファーが書ける人を増やしていくことも必要だと思っています。



書くことの楽しさを伝えるワークショップは不定期に開催中。

* この仕事に向いている人は?

書くことが好き、クリエイティブなことを考えるのが好きなのは最低限として、集中して細かな作業、同じ作業を続けることができる人。それはメンタル面の強さとも言えるでしょう。私自身、あまりにも量産しなければいけないときや、気持ちが乗らないときなどは大変さを感じます。それでも、文字の構成や組み合わせ、余白の活かし方などを考えていると楽しいし、依頼者の喜ぶ顔を思い浮かべれば、もっといいものを作りたいという気持ちに駆られます。プランナーの仕事にも通じる、そんな喜びがあるから頑張れますね。

Personal Facts

今回のPersonal Factは、洗練された感性によるスタイリングで幅広く活躍され、トレンドセッターとしても注目を集めるスタイリストの古田千晶さんのセンスのヒミツに迫ります。

成分①：縁

縁が縁を呼び新たな出会いを運ぶ

小さい時から洋服はもちろん、アートやインテリアが大好きでした。大学生のときの就職活動で自分の将来を考えたとき、スタイリストの仕事をしてみたいと思いましたが、両親の強い勧めもあり一度は一般企業に就職しました。しかし、やはりスタイルの夢は捨てきれず、退職して東京に上京しました。

スタイリストに関連する学校を出たわけではなく、東京に何の伝手もなかった私は、出版社やスタイリストさんが所属している事務所に履歴書を送りながら生活をしていました。ある日、アシスタントで入った撮影で知り合ったスタジオのスタッフに、「あの人には師事したい」と尊敬するスタイリストの話をしていたら、後日、彼女から「そのスタイリストさんがアシスタントを探しているみたいだよ」と連絡がありました。それがきっかけで憧れていた師匠のもとで働くことが出来ました。



Inspirations for WEDDING DESIGNS
一枚の招待状からすべてが始まる
著者 Joe MASUZAWA 発行 主婦の友社

また、今回ジョー・マスザワさんが出されたペーパーアイテムの本(5月末発売)でもスタイリングをさせていただいたのですが、それもマイプリントさんに声をかけていただいたことがきっかけでした。私には本当にたくさんの素敵なお縁、出会いがあって今があると実感しています。

成分②：情熱

どのような環境でセンスを養うかは重要な要素

私はいつも、縁と隣りあわせではないかと思うほど、環境も重要だと思っています。振り返ると幼少の頃から、インドア

派の両親のもとで映画や美術などに触れたこともセンスを培う大切な環境だったと思います。

またどのお仕事にも言えることですが、努力、知識、技能などは大前提として、特にスタイリストという職種は、キャリアの初期に誰のもので勉強をするか、修行するかが後の仕事を大きく左右するほど重要なと思います。尊敬する師匠のもとで働いてきた経験や知識、センスなどが、今の私の仕事にもたくさん生かされています。

成分③：夢・使命感

想いを言葉で伝えることで広がる可能性

スタイリストという仕事は、人一倍強い夢や、運をつかむという念を持つていないと続かない仕事だと思います。縁のところでも触れましたが、師匠との出会いも強い想いがあつたからこそめぐりあえたと思っています。強い願いを口にすると「想いを言葉で伝えることで広がる可能性」が大切だと実感しました。言葉に出さないと人は伝わらないので、それからは想っていることややりたいことは言葉にすることにしています。



イラストレーターの個展のために撮り下ろした作品

今までではウェディングにはあまり関わりがありませんでしたが、独立してからはウェディングのお話もたくさんいただいている。ファッショニエでは足し引きが重要だとよく言われますが、その部分はウェディングにも共通することだと思います。素敵だからといって色々なものを足していくべきいいというわけではなく、テーマを1つに絞り、そのテーマに合わせて引き算することも重要だと思います。

結婚式を挙げる方のセンスや意識が高まってきた昨今、その結婚式のテーマやイメージをまとめるプランナーさんはとても重要で大変なお仕事だと思いますが、挙式者と向き合い、素敵な結婚式を創り続けてほしいと思います。

想いを言葉にすることで広がるご縁を大切にして、
新たなステージへ常にチャレンジし続ける、
それが古田千晶さんです!!

古田 千晶 (スタイリスト)

モード紙やブライダル情報誌のスタイリングをはじめ、多くの広告、カタログなどを手がけている。定評のあるスタイリングによりアパレルショップのイベントや監修をするファッショニエとしても活躍の幅を広げている。



◆表紙の写真は古田さんがイラストレーターの個展のために撮り下ろした作品。



5年ぶりにクリスマスコレクションをリリース！

靴下の形をしたメニューやクリスマスリースがあしらわれた席次表など、
クリスマスウェディングがよりいっそう楽しくなるようなアイテムが盛りだくさんです！



クリスマスリースは
永遠に続く愛を表しています
ふたりがいつまでも
幸せでいられますように



聖なる夜に光り輝く
イルミネーションのような
幻想的で優雅なカード
大人のクリスマスウェディングを
演出します

NIGHT SKY
Estrella
ILLUMINATION
エストレア



snow crystal
clite
.....スノークリスタル.....
純白の雪とクリスマスツリーで輝く街
サンタとトナカイが大切なゲストへ
ふたりの幸せを届けます。



大切な人を想いながら紡ぐ
編み物という意味のマーリア
心あたたまるパーティを予感させる
ノルディック柄のカードです

